

# Republic of Niger

EARTH GALLERY Vol.133 [ニジェール共和国]

地球ギャラリー

写真文・デコート・トヨサキ・アリス  
ジャーナリスト

日の出とともに歩くトゥアレグ族の“塩キャラバン”。ニジェールのアガデスからテネレ砂漠を横断し、オアシスで買い付けた塩をナイジェリアまで南下して市場で売り、コミュニティのための穀物を仕入れる。

# 千年続く塩の道



ビルマの塩田の近くで朝食をとるトゥアレグ族。  
後ろにはヤシの葉に包まれた岩塩が並んでいる。



アガデスのシンボル、高さ27mのミナレット。  
ニジェールの中心に位置するこの街は昔から  
キャラバンの交差点だった。



千年前からこの地域で続くキャラバンは、  
一見なにも目印がない砂漠を迷わず進んでいく。

旅の合間にふざけあう子どもたち。  
"ブルーメン"とも呼ばれるトゥアレグ族伝統の青い衣装が鮮やかだ。



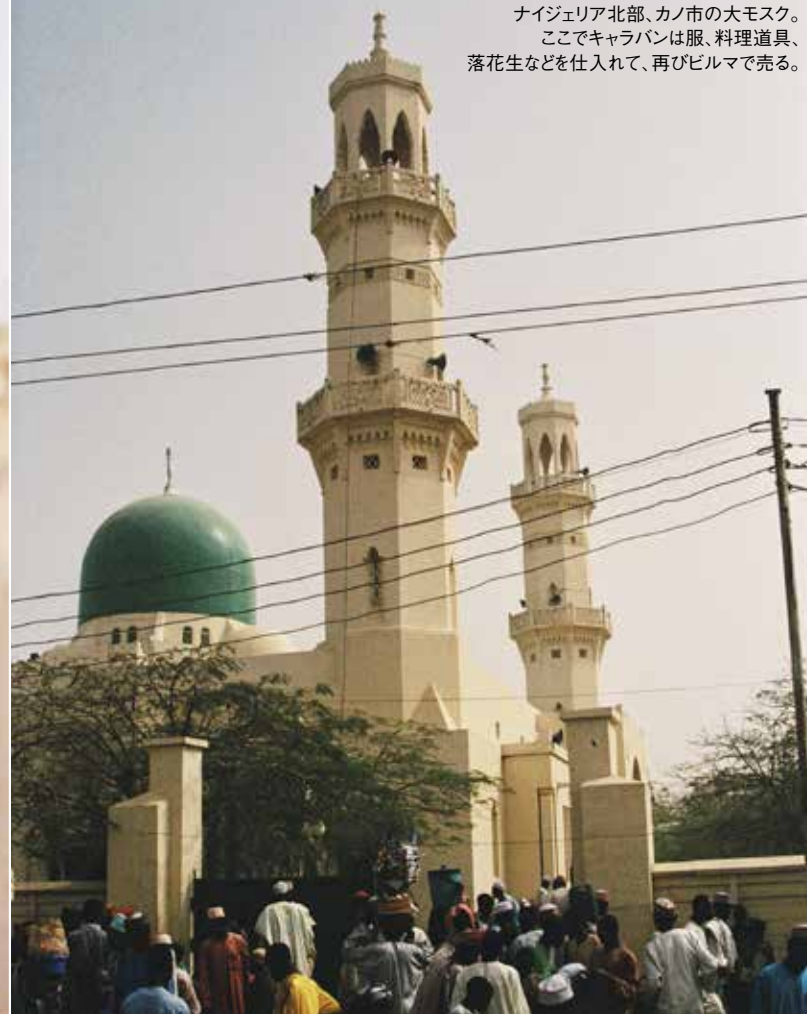
5日ぶりに井戸にたどり着いたキャラバン。  
慣れた様子で地下から水をくみ上げていく。



ブッシュマーケットでは、ウマ、こぶウシ、ラクダや  
ヒツジを飼う遊牧民がキャラバンの岩塩を毎年待つ。



ナイジェリア北部、カノ市の大モスク。  
ここでキャラバンは服、料理道具、  
落花生などを仕入れて、再びビルマで売る。



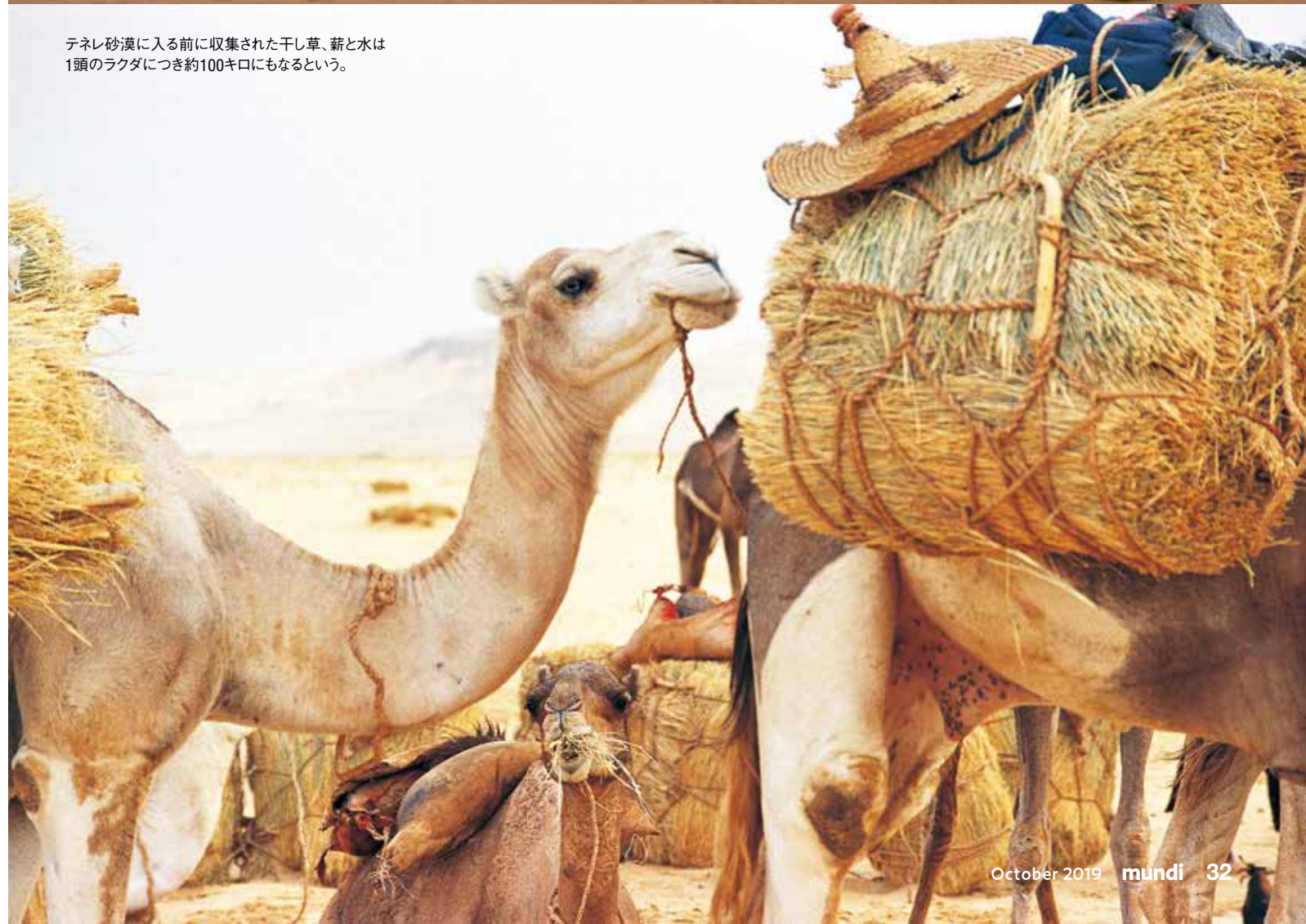
ビルマで岩塩を売るカヌリ族の女性。  
ラクダに積みやすいようにパンのような  
丸い形に固められている。



農作業をするサヘル地域のハウサ族の女性。  
収穫した大量のミレット(雑穀)を  
キャラバンが買っていく。







テネレ砂漠に入る前に収集された干し草、薪と水は1頭のラクダにつき約100キロにもなるという。

私が初めて塩キャラバンに参加したのは、1998年のことだ。きっかけは雑誌に掲載された、まるでおとぎ話の世界から抜け出してきたような美しいキャラバンの写真だった。

記事の中で、キャラバンを営む「ブルームン」と呼ばれるトゥアレグ族の男性は太陽と星を見て方向を定め、岩塩を買いつけるために1日16時間も歩くと紹介されていた。この時代遅れにも思える交易は、車が導入されてからは、ラクダで2か月かかった距離を2週間で走るトラックとの激しい競争にさらされているという。

キャラバンが残るうちに、砂漠とともに横断してみた。JICAの砂漠化防止計画の通訳の仕事をつかきつけにニジェールの首都のニアメを訪れた後、私はサハラ砂漠の町アガデスに向かった。そこでラクダを3頭買って、40日間塩キャラバンと一緒に砂漠を渡った。

それは想像を絶する砂漠の美しさと、トゥアレグ族の生命力に圧倒された旅だった。しかし何よりも驚いたのは、移動の規模だ。私が同行したテネレ砂漠を往復する1400キロのルートは、実はほんの一部にすぎなかった。彼らはさらにサヘル地域の市場まで移動し、塩とナツメヤシを売ってから大量の穀物を買い、ナイジェリアまで南下する。塩キャラバンはサハラ砂漠とオアシス塩田を結ぶ西から東のルートと、サハラ砂漠とサヘル地域を結ぶ北から南の二つのルートを持つ3000キロの交易だったのだ。

塩キャラバンを長年研究している人類学者のゲルト・シュピットラーによれば、この伝統的な交易は経済的、社会的な役割がとて大きく、車輛のガソリン代や維持管理費がかからないため、トラックの運搬に比べて利益が2倍であるという。これは今まで読んで、ラスト・キャラバン」に関する記事とまったく逆の視点だった。千年も続くラクダ乗りの交易に本来に未来があるのなら、記録を残さなければならぬ。私は終点のナイジェリアまでドキュメンタリーを撮影することを決め、2003年、ビデオカメラと発電のためのソーラーパネルを持ち、ふたたび塩キャラバンの旅に同行した。

前回と同じ40日間の砂漠の旅のあと、キャラバンは南部のダコロ地域に向かった。ハウサ族のミレット（アワやヒエなどの雑穀）収穫が終わる11月、休耕地でキャンプをしながら、毎日農村の小さいブッシュマーケットへ出向く。キャラバンの人々はヤシの葉で丁寧に包まれた岩塩を並べ、仕入れ価格の10倍で売っていた。客はプール族やトゥアレグ族などの遊牧民だ。市場には、小型トラックで運んだ塩をキャラバンよりも安く売っているアラブ人の店もあった。その塩は純度が低く灰色がかっていた。小さい家畜を飼うハウサ族の農民は、このような雑貨店で年中日用品として販売されている塩を購入していく。だが、家畜が財産である遊牧民は年に一度しか来ないキャラバンの高品質の塩を待っていた。砂

漠に放牧されるラクダやこぶウシにとって、塩は命なのだ。

岩塩の売り上げで農民から穀物を仕入れることで、キャラバンの人々は自給自足に近い生き方を保っている。代々受け継がれてきた何千キロにもおよぶルートは、サヘル地域の穀物を遊牧キャンプまで運ぶ。ニジェールで発生した80年代の大干ばつの際には、塩キャラバンがナイジェリアから多量のミレットを砂漠へ持ち帰ったおかげで、大勢の遊牧民が助かった。ナイジェリアのカノ地方に降りると、キャラバンは緑豊かな牧草地でラクダの群を放牧しながら、農民の休耕地をその糞で肥沃にする。無料で自然の堆肥を残してくれるキャラバンを農民は歓迎し、代わりに水や食べ物を提供する。農民と遊牧民は本来おたがいのニーズを補完する存在なのだ。塩キャラバンが思い出させてくれた。

サハラ砂漠一帯では、国家によって定住化やトラックの導入、農地政策などが実施されてきた。その中で、何世紀にもわたって環境に生き方を順応させてきた塩キャラバンのような現地オリジナルの経済システムこそが、砂漠の少ない資源を守り続けているのかもしれない。

Alissa Descotes-Toyosaki

(デポーター、エッセイスト)

ジャーナリスト、ドキュメンタリー監督、アフリカの遊牧民族を支援する団体「サハラエリキ協会」主宰。父はフランス人、母は日本人。現在は福島原発事故やニジェールのツンツン山の実態などを追う。サハラ砂漠を4か月かけて横断する塩キャラバンの日常を追ったドキュメンタリー「Caravan to the future」を2016年に完成させた。サハラエリキホームページ：http://sahara-eliki.org/jp



塩キャラバンの三角交易エリア。三つの都市を結ぶ道中の村に立ち寄りながら、およそ3,000キロを旅する。



## 日本発のマイクロファイナンス企業に10億円を出資



小口融資でミシンを購入したミャンマーの女性。手縫いよりはるかに多くの服を作れるようになり、生計が向上した。

8月22日、JICAは五常・アンド・カンパニー株式会社(以下、五常)との間で、10億円の投資契約に調印した。五常は途上国でマイクロファイナンスと呼ばれる無担保の小口融資や預金などの金融サービスを提供しており、低所得者層の生活水準の向上や小規模ビジネスの売り上げ拡大を後押ししている。今回の出資は、五常の事業拡大を支援するもの。世界には金融機関に口座を持たない成人が約17億人存在し、うち約10億人を女性が占める。格差は途上国

で特に大きい。五常は女性を利用しやすいサービスを展開し、女性の地位向上にも大きな影響を与えている。五常への支援は日本が加する「G7 2X チャレンジ」女性のためのファイナンス「イニシアティブ」の推進に貢献するものであり、SDGsのゴール8「働きがいも経済成長も」にも合致する。

\*1 出典「Global Findex 2017」  
\*2 G7の開発金融機関が、ジェンダー平等に貢献するビジネスなどへの出資拡大を目指すイニシアティブ。

## ニュース深掘り! すべての人に金融アクセスを

1970年代に登場した貧困層向けの小口融資は、2006年にそのビジネスモデルを確立したムハマド・ユヌス氏がノーベル平和賞を受賞したことで、広く知られるようになりました。「最初の一步を踏み出すためのわずかな資金を融資し、経済的自立を後押しする」という理念のもとに登場した小口融資ですが、近年は新規参入者が増え、理念に合わない事業も目立つようになりまし

た。社会課題の解決という視点が小口融資にあらためて求められるなか、五常は「顧客第一」の姿勢を徹底しています。融資の際には顧客にとって必要な情報を十分な時間をかけて説明し、貸し出す金額は顧客の事業に必要な分のみ。金利は業界内でも最低の水準ですが、さらに下げられるため、電子決済などのテクノロジーを活用したコスト削減を進めています。

生まれた境遇で人生が左右されないためにも、五常のサービスのようないい金融へのアクセスは、すべての人に開かれているべきです。今回の出資によって、五常が掲げる「民間版の世界銀行として世界中に金融アクセスを届ける」という目標の実現に近づき、貧困にある人々の経済的自立が加速することを願っています。

民間連携事業部  
海外投融資課  
**日野薫郎**さん  
ひの・くんろう  
大学院で公共政策学の修士号を取得後、民間企業に5年間勤務し電力・水事業やフィンテック・ITマーケティングの業務に携わる。2017年にJICAに入社。「これからも素晴らしい理念と運営能力を持った企業を支援していきたいです」。



## JICA HEADLINE NEWS

- 9月 2日 | ▶ I&P Afrique Entrepreneurs II LPに対する出資契約に調印  
社会的事業を行うファンドへの出資を通じて、サブサハラ・アフリカ地域における中小企業の成長を支援。
- 8月28日 | ▶ 第7回アフリカ開発会議(TICAD 7)が横浜で開幕  
多様なパートナーとの戦略的連携を強化。北岡理事長がアフリカ各国首脳らと会談。
- 8月23日 | ▶ 世界柔道選手権に青年海外協力隊の教え子が続々出場!  
2019世界柔道選手権東京大会に、カザフスタンやブータンなどに派遣された8名の青年海外協力隊員が指導する選手、合計26名が参加。

◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!  
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>



## 読者の声

### 7月号「メコン地域 次なる成長に向けて」を読んで

ミャンマー税関のbefore、afterの写真を見て作業効率のよさが伝わってきました。国際社会においてリスク管理と円滑な作業は絶対に必要であり日本の協力がしっかり生きていて頼もしく思いました。  
(愛知県/70代/女性)

地球ギャラリーの白黒写真に引き込まれました。カラーよりも伝わってきます。彼の人生、夢を応援したくなりました。  
(香川県/60代/男性)

### 8月号「気候変動対策 地球の未来のために」を読んで

気候変動対策は、地球上の人類すべてにおいて、最優先で取り組まなければならない最も重要な問題です。日本が現在、39か国137案件で協力していることを知り驚きました。また、アフリカのケニアでバラが栽培されていることも知り、アフリカに対するこれまでのイメージとは異なった平和で安心な優しい思いが伝わりました。  
(北海道/60代/男性)

先進国が大きな原因をつくってしまったともいえる気候変動。これからの厳しい現実に、先進国は途上国に対して責任をもって支援していくことの重要性を多くの人と共有したいですね。美しいサンゴ礁に魅せられバラオに何度か行きました。現地が水不足になったときに訪問し、水のありがたさをあらためて実感しました。  
(京都府/50代/女性)

## 《アンケートのお願い》

プレゼント付き

JICAや記事内容についてのご意見、ご感想をお待ちしております。また、こんな企画を実施してほしいなどのご希望もぜひお寄せください。お寄せくださった方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。下記項目をお書き添えのうえ、巻末のアンケートはがき、Eメール、またはファクスでお送りください。

- 氏名 ●住所 ●電話番号 ●年齢 ●性別 ●職業
  - 本誌を入手した場所 ●面白かった記事 ●本誌へのご意見・ご感想 ●JICAへのご意見・ご質問 ●ご希望のプレゼント番号
- \*お寄せくださったご意見・ご感想は、本誌やJICAのウェブサイトに転載する場合があります。あらかじめご了承ください。ご記入いただいた個人情報は、プレゼントの発送および誌面の向上に役立てること以外の目的で使用いたしません。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます

◎応募締め切り 2019年11月15日

## [2019年10月号のプレゼント]

- ① **バラオのコースターセット** 1名様  
バラオのコースターセット
- ② **ブータンのエスプレーと石けんのセット** 各2名様  
ブータンのエスプレーと石けんのセット
- ③ **絵本『ハートのレオナ』** MISIA作、大宮エリー 絵、主婦と生活社 1名様  
絵本『ハートのレオナ』 MISIA作、大宮エリー 絵、主婦と生活社 1名様

# mundi

OCTOBER 2019 No.73  
編集・発行：独立行政法人 国際協力機構  
Japan International Cooperation Agency (JICA)  
〒102-8012 東京都千代田区二番町5-25  
二番町センタービル  
TEL: 03-5226-9781 FAX: 03-5226-6396  
URL: <http://www.jica.go.jp/>

制作協力：株式会社 木楽舎  
〒104-0044 東京都中央区明石町11-15  
ミキジ明石町ビル6F『mundi』編集部  
TEL: 03-3524-9572 FAX: 03-3524-9675  
Eメール: [ML\\_JICAPR@jica.go.jp](mailto:ML_JICAPR@jica.go.jp)

- アンケートの送付、定期送本、バックナンバーの取り寄せに関するお問い合わせは木楽舎までお寄せください。
- 本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載を禁じます。



## 定期送本のご案内

●申し込み方法  
巻末の払込取扱票に、氏名・住所・電話番号・ご希望の送本期間・送付開始月号を明記の上、所定のお金(送料+手数料)を郵便局でお支払いください。入金確認後、発送の手配をいたします。入金から1週間程度かかることもありますのでご了承ください。  
\*複数冊、またはバックナンバーをご希望の場合は送料が異なりますので『mundi』編集部(木楽舎)までお問い合わせください。

次号予告(2019年11月1日発行予定)

**11月号 特集 緊急援助・復興・防災 自然災害にともに立ち向う**  
世界各地で起こる自然災害における緊急援助隊の活動を中心に、その後の復興、防災へとつながる「災害マネジメントサイクル」について、JICAの取り組みやプロジェクトを紹介します。



『mundi』バックナンバーはJICAのウェブサイトでもご覧になれます。

JICA mundi 検索 <http://www.jica.go.jp/publication/mundi>